

平成 30 年度 第 3 回 京都府立図書館協議会 資料

平成 31 年 3 月 14 日

1. 議事次第	… 1
2. 京都府立図書館協議会委員名簿	… 2
3. 平成 30 年度第 2 回京都府立図書館協議会 議事要旨	… 3
4. 平成 30 年度取組状況について	…別紙
5. 平成 31 年度事業計画（案）について	…別紙
6. 岡崎での開館 110 周年事業について	… 7

※ 参考資料

- 参考 1. 平成 30 年度の当館活動について
- 参考 2. 平成 30 年度広報（報道発表資料）等
- 参考 3. 平成 30 年度主要掲載記事等
- 参考 4. 岡崎での開館 110 周年事業関連記事等
- 参考 5. 府内公立図書館の状況について

平成 30 年度 第 3 回 京都府立図書館協議会

議 事 次 第

平成 31 年 3 月 14 日

1. 平成 30 年度第 2 回協議会の議事録について
2. 岡崎での開館 110 周年事業について
3. 平成 30 年度取組状況について
4. 平成 31 年度事業計画（案）について
5. 今後のスケジュールについて
6. その他

京都府立図書館協議会委員名簿

(敬称略)

氏 名	所 属 ・ 役 職 等
明致親吾	京都CSR推進協議会会長
小川雅史	京都府立嵯峨野高等学校長
桂まに子	京都女子大学講師
潮江宏三	京都岡崎魅力づくり推進協議会代表 (京都市美術館長)
永田 紅	歌人
西亜希子	京都府図書館等連絡協議会会長 (南丹市立中央図書館長)
原田隆史 (会長)	同志社大学大学院教授
松下亜樹子	京都新聞社 滋賀本社編集局編集部長代理兼論説委員
村川広美	舞鶴市立中筋小学校長
矢納佳実	京都府立大学生

平成 30 年度 第 2 回京都府立図書館協議会 議事要旨

1 開催日時

平成 30 年 11 月 9 日（金）午後 2 時から 4 時まで

2 場所

京都府立図書館（京都市左京区岡崎成勝寺町）

3 出席者

原田隆史会長、明致親吾委員、小川雅史委員、桂まに子委員、潮江宏三委員、永田紅委員、西亜希子委員、松下亜樹子委員、村川広美委員、矢納佳実委員

4 会議の内容

- (1) 平成 30 年度第 1 回協議会の議事録について
- (2) 平成 30 年度上半期取組状況について
- (3) 府立図書館の現状分析について
- (4) 今後のスケジュールについて
- (5) その他

5 協議事項

- (1) 平成 30 年度第 1 回協議会の議事録について
○事務局から概要について資料に基づき説明。
- (2) 平成 30 年度上半期取組状況について
○事務局から概要について資料に基づき説明。
○委員意見
 - ・ 職員の育成に関して、自主研究グループによる、著作者の没年を調査することで資料の利活用を促進する「没年調査ソン」など熱心な取組がなされている。図書館として自主グループへの支援の内容を具体的に教えていただきたい。
→会場の提供及び図書館資料や機材の利活用である。
 - ・ 今年度も非常に多くの事業に積極的に取り組んでいるが、現実として職員の負担はどうか。新規事業は大切であるが、事業の新陳代謝も必要であり、スクラップを考えないと負担が増すばかりである。
→連続講座や子ども食堂への支援等、新たな取組にチャレンジしている。職員の仕事は増えているが、図書館を府民に一層利用いただくために、職員も積極的に頑張っている。また、京都女子大学の学生のインターンシップとしての活動も受け入れている。
 - ・ 項目 6 の複本整理の際は、初版本を優先するのか。
→同版同刷のものが複数ある場合に確認してから対応している。
 - ・ 項目 14 の「入りやすく利用しやすい空間」の関係で観光客の取り込みを考えたらどうか。インスタグラムのスポットにもなり得る。また、和紙のしおりなど、「ザ・京都」を感じられるようなものの配布を検討して良いのではないか。旅先で図書館に足を踏み入れる機会はあまりないだろうから、印象に残るだろう。色々な図書館体験ができればよい。

また、ナレッジベース企画への参加者の声を知りたい。

→観光客の方には外観の写真を数多く撮影いただいている。また、館内見学会においては自動化書庫の撮影を試行している。

ナレッジベースにおける企画については、参加者から「多様な資料を所蔵していることがわかった」と、非常に喜んでいただいている。

- ・相互貸借など府内のどこの図書館でも、府立や各図書館の書籍の貸出ができることを一層PRすべきである。
- ・項目1の他の図書館との連携のところで、府内のネットワークは充実してきているが、他の図書館のホームページ等で府立図書館が紹介されているのか。
また、論文を探す利用者が増える方向があると良い。
→市町村立図書館等は、多くが対応リンクを張っていただいているところである。
佛教大学では先方のディスカバリーサービスで府内図書館の蔵書の検索が可能になった。今後は大学図書館ともそういった連携が増えていくように努力していきたい。
- ・評価の高い旧館の家具などに府民が見学でき触れられる機会はあるか。企画ツアーは喜ばれるが実施のための負担が大きい。
→今年度の目標として、なんらかの工夫で家具等を見ていただける機会を作りたいと考えている。
- ・隣の公園の地面が土であることが気になる。北側からのアプローチの際に通ることになるが雨天の際など非常に通りにくい。入りやすさという点で改善できないものか。
→京都市の公園であり図書館での対応は困難であるが、例えば、公園と図書館との敷地境界の段差の解消や公園の落ち葉の処理など、必要に応じ京都市にお願いをしている。
- ・京都学・歴彩館との連携も検討していただきたい。新館になってハードルが高くなったように感じることもあり、そういった部分を図書館が補完できればよい。
また、国際化への対応も考えていただきたい。プレートひとつをとってみても、英語も併記してあると、来館者のイメージがよくなり、図書館としての見せ方が違ってくる。多様な人が来やすい、キラキラかがやく感じを出せればよい。

(3) 府立図書館の現状分析について

○事務局から概要について資料に基づき説明。

○委員意見

- ・(2)の上半期取組(64の目標)のどこに連動したデータなのかをわかるような資料作成をいただければありがたい。
- ・今回の資料は、図書館の世界ではあまりないもの。満足度調査などはあるが、年齢層や天候との関係など、検討のきっかけとして非常に興味深い。
なお、府立図書館の座席数はいくらか。
→100席程度で、ピーク時にはほぼ満席になる。調査研究型の図書館なので、長時間滞在される方も多し。キャパシティとしては現状で限界なので、協議会の御意見もいただきながら、数値目標の在り方を次期サービス計画に向けて検討していきたい。
- ・稼働率と満足度の関係など検討できるのではないか。また、やはり若い方への訴求が必要ではないか、雨の日対策も検討してはどうか。

また、データから見えてくるが、雨の日の来館者数や座席数、人口動態などから考えると30万人といった実現しがたい目標は考え直す必要がある。常に混雑している図書館が良いわけではない。

- ・混雑も少なく静かで落ち着いた雰囲気の中で読書や研究に打ち込める今の府立図書館が好きであり、同じ意見を持つ府民が多くいると思う。
- ・現サービス計画に向けての議論において、府立図書館のあり方として来館者数を上位の指標にするような議論はなかった。来館者数をやみくもに追いかける必要はない。貸出や企画イベントなど、来館目的別で調査を行えばよい。
- ・館内閲覧と貸出の本は重複しないかもしれない。調査研究型ということを見ると、館内閲覧が重視されても良い。調査は負担が少ない方法を工夫すべきである。
- ・学校支援セット貸出の北部展開はありがたい。地域の図書館経由で実際に見られることは利用者にとって大きなメリットである。またネットでも表紙が見られるなど、学校用のチラシも見やすくイメージが膨らむものに改訂してほしい。特に調べ学習に取り組む時期には、セット貸出を活用した学習が伸びてくる。
- ・学校支援セットは、現場の教員が把握できていない時もある。学校図書館の支援員などと連携しながら進められる面もあるのではないか。
- ・非常に面白いデータとなっている。今回提示された資料があつてはじめて、このような議論ができています。連携など、相互作用のデータがとれば一層良い。
- ・府立図書館は市町村立図書館の運営にとって参考となる大きな存在であり、かつ、特に相互貸借や連絡協力車の運行などは市町村図書館として非常にありがたい取組である。
- ・個人貸出は今後とも減ることを前提で考えていくべきであり、市町村・学校や団体への貸し出しを地道に実施することが大切である。若い人の利用増と高齢の方の利用増も同時にできるのではないか。美術館などでは、無料ゾーン、ソファなどを置いて「なんとなくたむろできる」ゾーンを増やす方向である。品を落とさず、この家具や雰囲気の特別感をどう出すか、図書館前の広場に多く訪れる方々の誘導を考えてほしい。その上で、クオリティの高いことをやるべきである。
- ・電子図書館サービスの検討は行っているのか。また、府立図書館の良さは、他にはない空間と待ち時間がなく極めて短期間で資料閲覧や貸出ができることである。利用者があまりに多くなるとその点が不安であり、他の図書館との差別化がなくなってしまうと考える。
→電子図書館については今年度の目標として分野を絞って研究したい。予算の関係もあるが、貸出サービスを充実させていく選択肢としてあり得る。
- ・情報へのアクセシビリティという点では、データベースやレファレンスも含め、利用数の他にスピードなどのデータも取れるのではないか。
- ・「なんとなくたむろする」という表現がしっくりきた。その意味で「雨の日こそ図書館へ」というキャンペーンも考えられるだろう。
→去年からの入館者数の低下は、京都市美術館の改装の影響もあるのではないかと考えている。しかし、努力しても天候などの要因で左右されるとすれば、この目標を達成することは困難と考えている。図書館のアクションで達成できるような目標を検討したい。
- ・本日のデータは他では見ない貴重なデータである。まず作成・提出いただいたことに感謝したい。本日のデータを踏まえながら新しい評価の仕方を考えたい。また、世代別にターゲットを絞って企画を立てる、例えば学生企画などもできれば

よいのではないか。

なお、学校支援のあり方は、直接の児童サービスを持たない京都独特の取組でありもっとプッシュしたいが、現状の広報の改善点はあるか。

→学生企画はご支援いただきながら検討したい。

学校支援については、学校支援セットの背表紙の写真を紹介するなど、より内容がわかる方向を検討している。

○会長まとめ

- ・桂委員にグループ長としてお世話になっている評価グループについては、新たな評価手法は現時点で決定していくのではなく、次期サービス計画に向けての検討の中で、評価についても検討いただくこととしたい。
- ・非常に多くの取組がなされており、効果があがっていると評価できる。引き続き下半期に向けて頑張ってくださいとともに、ある程度進捗した事業について継続すべきかどうかを含めて検討いただきたい。
- ・現状分析について、本日調査結果をデータで提出されたことを評価したい。また来館者数の指標について、数だけを重視する現在の指標は府立図書館の目標としてふさわしいものではなく、いろんな面から検討すべきとの意見が、多数の委員から出されたところであり、協議会としての意見としたい。

(4) 今後のスケジュールについて

- ・次回は2月下旬の開催を予定。

(5) その他

本協議会の公募委員の募集を11月20日から行うことを事務局から報告。

岡崎での開館 110 周年記念事業について

平成 31 (2019) 年は、京都府立図書館が岡崎の地で開館し、本格的な図書館機能を備えた時から 110 周年になります。明治 42 (1909) 年 2 月 2 日に竣工したことを記念し、下記のとおり各種の事業を実施しました。

記

1 記念展示

「京都府立図書館 岡崎 110 年」

- ▷ 期 間 平成 31 年 2 月 2 日(土)～2 月 24 日(日)
- ▷ 会 場 京都府立図書館 2 階
- ▷ 観 覧 者 700 名
- ▷ 展示内容 ◆当館建築に関わる大森知事の趣意書
◆旧館時の家具
◆解説パネル等

2 記念講演

- ▷ 日 時 平成 31 年 2 月 3 日(日) 午後 1 時 30 分～3 時
- ▷ 会 場 京都府立図書館 3 階
- ▷ 演 題 「京都と近代」
- ▷ 講 師 国際日本文化研究センター教授 井上章一
- ▷ 定 員 80 名
- ▷ 申込者数 247 名
- ▷ 当選者数 120 名
- ▷ アンケート結果…講演の感想として、「建築と都市の関わりのお話がとても興味深かった」「建築が戦争の抑止力になるという考え方は素晴らしい」など満足度が非常に高かった。また、参加者の半数以上が初めて、もしくは久々に図書館に来館された方だった。

3 記念パンフレット作製

「岡崎 110 年 京都府立図書館」

- ▷ 発行 平成 31 年 2 月 2 日
- ▷ 部数 5000 部

4 エントランス展示

- ▷ 「京都府立図書館のあゆみ (1)」
 - ◆ 集書院の開設から岡崎に移転後の 1910 年代まで、写真を中心に振り返る
 - ◆ 展示期間 平成 31 年 1 月 8 日 (火) ～3 月 27 日(水)
- ▷ 「京都府立図書館のあゆみ (2)」
 - ◆ 岡崎とともにあった 1910 年代から現在までを、写真を中心に振り返る
 - ◆ 展示期間 平成 31 年 3 月 29 日 (金) ～5 月 22 日(水)